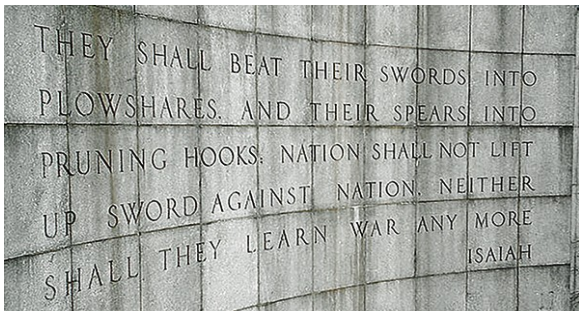


2024年11月30日発行

世界から戦争をなくすために

坂内 義子



国連広場の「イザヤの壁」(関智征氏提供)



横浜でのキリスト教平和講演会で演壇に立つ坂内義子氏

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣を上げず もはや戦うことを学ばない。(イザヤ書二章4節、新共同訳)

ニューヨークの国連広場に上記の「イザヤの壁」と呼ばれる石碑が建っています。私はその前に立ったとき、深い感動で心が震えました。国連の目指す世界平和に対する決意なのだ、と。1997年と98年の3月「女性の地位委員会」が開かれて、日本の平和団体「友和会」の数名と、暴力・武力紛争・人権問題の話し合いに参加したときのことで。

ところが、現状はどうでしょう。国連安全保障理事会の常任理事国のロシアが「侵略してはならない」という国際秩序の基本的ルールを破ってウクライナに侵攻し、中東ではイスラエルとパレスチナにおける大規模な武力衝突が引き起こされるなど国際的な分裂を招き泥沼化してしまっています。「イザヤのことば」が単なる飾りになってしまっていて無念です。

今の国際紛争の一番の問題は個人に権力が集まる「暴君」による支配・権威主義体制です。国連安保理事会は「拒否権」を振るうロシアやアメリカの非協力的態度の前に無力です。

内村鑑三は、上記のイザヤの言葉を「所感」の中で述べているのがまさに現在の国際情勢です。

「戦争が止むのに二途がある。進んで敵意をはらすことであり、退いて自己を正すことである。そして神は常

にその第二途をお選びになる。けれども人は常に罪を他人に帰して、自身は美名を帯びて死のうと願う。これが戦争のある理由である。名誉心であり、傲慢心であり、流血を存在させるものはこれである。人類が自己を顧みることには敏で他を責めることに鈍である時に、戦争は全く廃止されるようになるのである」と。

実は怖いのは今の日本です。アメリカの言うなりに近隣諸国を敵とみなす軍事力増強を目論み、「抑止力」を名目に戦争のできる国へと進めています。防衛費や軍事費を増額して、新たな自衛隊基地建設やミサイル配備をすすめることで、戦争への緊張を高め、不安をかき立て、更に危険な状況を生み出しています。第二次世界大戦後、日本は悔い改めが不十分ながらも、二度と戦争をしないために「戦争放棄」を含む「平和憲法」を制定しました。その日本であればこそ、国連の安保理事国として、世界から武器を無くし、紛争の火種が大きくならない内に相互国が話し合って理解し合い赦しあう和解の道をすすめる役割の先頭に立って欲しいです。

私たちの小さな力でできることは少ないですが、キリスト者として、二元論にたつただ傍観視するのではなく、平和をつくりだす人として、身近なところから人々が互いに赦し合い、愛し合うことで、世界から戦争がなくなりますように祈りあいしたいと思います。

(渋谷聖書集会 ばんない よしこ)

# 目次

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 表紙・巻頭言                          |  |
| 目次・内村鑑三の言葉<br>表紙について・発行趣旨.....2 | 内村鑑三記念キリスト教講演会<br>(東京・名古屋・大阪)のご案内.....11 |
| 内村鑑三記念今井館新築移転事業募金報告.....3       | 各地からの報告.....11                           |
| 無教会全国集会 2024.....4              | 定期集会・特別集会のお知らせ.....12                    |
| 「内村鑑三研究会」報告.....6               | 事務局便り.....15                             |
| 学校・学寮だより.....8                  | 維持会員募集のお知らせ・編集後記.....16                  |

## 内村鑑三の言葉

### 「千歳川鮭魚減少の原因」

千歳川は源を胆振国千歳湖に発し九里余にして  
長都沼に入りそれより十数里流れ石狩本流に達す  
該川は水甚清潔且温暖にして極寒の時に至ると  
雖も氷凍する事なし

選者注：『大日本水産会報告』1号（1882年3月）、  
『内村鑑三全集』1巻、9頁。

前年10月の12日間にわたる石狩川の漁業視察の  
調査報告書。土地の詩的描写は、柳田国男『遠野物語』  
の冒頭「遠野郷は今の陸中上閉伊郡の西の半分、  
山々にて取り囲まれたる平地なり」の観察批評と  
響き合う。1876年の鮭保護令のもと、鮭の減少を留  
網撤去による鮭の繁殖をその原因とした札幌県勸  
業課員としての水産報告書である。

(選：NPO法人今井館教友会監事 小林孝吉)

## ○表紙について

本号の巻頭言は、長年非戦平和の運動にかかわってこられた坂内義子さんが、「世界から戦争をなくすために」をお書き下さった。私たち、内村鑑三の非戦の信仰に教えられたものであれば、それぞれが自ら引き受けなければならないテーマです。「イザヤの壁」の写真は、日本キリスト教団行人坂教会の牧師関智往さんのブログからご提供いただきました。川中子義勝副理事長が顧問を務められていた東大聖研に参加していらしたそうです。坂内さんの写真は、無教会の行事の写真撮影でいつも御愛労下さっている飯田順朗さんの撮影です。(CY)



## 『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

## 「無教会全国集会2024」報告

無教会全国集会準備委員 荒井 克浩

2024年11月4日(月・休)に、今井館聖書講堂にて「無教会全国集会2024」が開催された。テーマは「ほんとうの平和」。聖書箇所は「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」(マタイ5:45)。差別の事実を見つめ、ほんとうの平和を考えるという内容である。会場参加者53名、オンライン(ZOOM)参加者30名、計83名。すべての講演者の話はテーマに沿った真摯な内容であった。また今回より無教会系の学校に連携を呼びかけることを考え、独立学園の後藤正寛校長先生、中村頌教頭先生、生徒3名がご参加くださり、共同プログラムを持つことが出来たことは新たな前進であった。

以下に主要プログラムの要旨を記す。(詳しくは来年3月頃発刊予定の記録集をお読みください。)



今井館での参加者たち

### (1)聖書講話「聖書における民族中心主義と多民族」

月本 昭男

イスラエルがハマスを攻撃する根拠は、宗教でも民族主義でもない。パレスチナではユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が、20世紀初頭まで仲良くやって来た。

そもそも現代のユダヤ人は決して純粋な単一民族ではなく、様々な出自を持つ人々の集合体である。旧約聖書においてすでにそうであった。イスラエルの始祖であるヤコブの12人の子供たちですら、異民族から妻を迎えたのである。だから、イスラエルに民族主義を唱える根拠はない。

他方で旧約聖書には、はっきりと異民族との婚姻を禁止し、異民族のせん滅を命じる言葉が記されている。ここには確かに宗教的排他的選民思想がある。しかし、旧約にはまったく別のビジョンも記されている。ヤーヴェは全民族の神であり、全民族を祝福し、平和に導くという人類的ビジョンである。このビジョンはすでに創世記に明瞭に現れている。そして、丹念に旧約を読んでいくならば、出エジプト記にも、各律法の書にもヨシュア記にも士師記にも預言書にもそのビジョンは流れている。このような人類的ビジョンは、聖書以外の聖典・宗教書には存在しない。

総じて、旧約には排他的民族主義が枝を張る一方で、人類という視点に基づく他民族に開かれた姿勢も根を張っている。前者が唯一神による「選び」の信仰の偏った形であるとするれば、後者は唯一神による人類救済の信仰の普遍的な形である。そして後者が新約聖書へと引き継がれていくのである。内村はこのおとずれを告げることが日本の天職であると言った。私たちもそれに連なりたい。

### (2)主題講演「今、平和とは——伊江島からの音景」

榎本 空

阿波根昌鴻さんは沖縄のガンジー、平和運動の父と評され、戦後、伊江島の土地が基地建設のために銃剣とブルドーザーで接収されていく中、他の農民とともに非暴力のたたかいを粘り強く続けてきた。

彼は内村鑑三が創立した興農学園に学び、無教会主義にも大きな影響を受けたキリスト者であり、彼のたたかいには多くの聖書の言葉が生きていた。彼は聖書の言葉を、自分の経験、カタストロフ、経験してきた歴史の中で引き取って行く。彼が設立した反戦平和資料館の壁には「すべて剣をとるものは剣にて亡ぶ(聖書) 基地をもつ国は基地で亡び 核を持つ国は核で亡ぶ(歴史)」と書かれている。このようなカタストロフの言葉に出会うとき、ジェイムズ・ボールドウィンという黒人作家の『次は火だ』の中の、ある奴隷が聖書の言葉を書き直して歌にした預言を思い出す。「神様はノアに虹のしるしを与え給うた。もう、水は終わった。次は火だ!」。私たちはこのような言葉の前に立ち止まり、真剣に受け止めねばならない。

### (3)特別講演「踏み絵にされ続け79年」在日コリアンの未来と朝鮮半島の平和に日本は?

阪神・淡路大震災から30年——風化させてはならない「市民＝議員立法」運動——ここから生まれた「被災者生活再建支援法」

玄 香実(ヒョン・ヒャンシル)

豊臣秀吉の朝鮮侵略の際に日本に連れてこられた(拉致されてきた)朝鮮貴族の娘、おたあ・ジュリア。私はクリスチャンではないが、人々を助け信仰一筋に生きたその姿勢に感銘を受けると同時に、彼女の祖国への望郷の念を想うとき、それは私の想いにも重なる。

高校無償化、幼保無償化で朝鮮学校は排除されている。チマチョゴリを裂かれる事件が起こり、サッカーの試合で日本人選手に「らちするぞ」と言われる。

1995年の阪神・淡路大震災では関連死・孤独死した人、生活再建できずに自殺した人もいる。父は関連死をし、在日の知人の死もさんざん見た。私たちは国が保証して公的に生活の支援をする制度が必要と考え、「阪神淡路大震災被災者に公的援助を『市民＝議員立法実現推進本部』(代表 故・小田 実)を結成し、市民が案を出し超党派の議員に呼びかけ、恒久法としての「市民＝議員立法『災害被災等支援法案』」を超党派議員に呼びかけて賛同をもらい参議院に上程した。それは「被災者生活再建支援法」成立の基点であった。

在日に関して関心を持って、動いてもらいたい。日本が朝鮮民主主義人民共和国と国交を回復しないまま来年で80年。それが原因で差別が生まれる。それでよいのか？日朝ピョンヤン宣言はどこに行ったのか？朝鮮半島をガザのようにするのか？

#### (4) 発題

##### ① 「平和について考えたこと」

浅井 慎也

私は代々木公園の通路で行われている礼拝に参加している。礼拝と言っても、ただ讚美歌を歌い説教を聞くだけの礼拝ではない。生活困窮者に対して食糧配給を行ったり、悩みのある人の話し相手になったりする奉仕と伝道の一体となった礼拝である。以下、そこで学んだことを話す。

一つ目は細かい配慮の大切さ。この礼拝をやっていくためには他人と協力することが不可欠だが、その協力がなかなか難しい。しかし細かい配慮を重ねていけば、どんな人とも協力してやっていけることが分かった。二つ目は社会福祉の限界。世の中には障がいであれ貧困であれいわゆるグレーゾーンの人がたくさんいて、そういう人は政府から面倒を見てもらえない。それを誰かが補わなくてはならないと学んだ。三つ目は法律の限界。どんなに良い法律を作ってもその法律を利用して儲けようとする人が必ず出て来る。貧困だけでなく、心が変えられなければ駄目だと学んだ。四つ目は公園礼拝のメリット。公園なら住民からの苦情や衛生面をあまり気にする必要がなく、いろいろなことを自由に行える。人目につきやすいので飛び入り参加者も出てくる。いいことがいっぱいである。総じて食糧配給が人々のためになっているのかいないのかはわからない。しかし、このようなスタイルの礼拝を通じて福音が伝えられていくことは確かであり、その意味で代々木公園チャペルでの礼拝は平和を作り出していると思っている。

#### ② 「教育の多様性と包括性」

那須 容平

高校の教育現場において、多様性と包括性の両立を目指す教育がなされている。いろいろな学び手の個性に合わせて教育できる環境、教育スタイル、配慮や支援を整え、いろいろな人が共に学び、成長することを目指していこうというのである。

しかし、そのような理想の実現を目指せば目指すほど不完全さ・不徹底さが露わになってきた。これは信仰体験と酷似している。律法を完全に守ろうとすれば守ろうとするほど、おかしい方へ行ってしまう。私は環境問題と真剣に取り組んでこのことを学んだ。環境問題を本当に解決するためには、人間存在を否定するほかないという結論に辿り着いてしまったからである。そのような私を救ってくれたのは、「心の貧しい者は幸いです」というイエス様の言葉であった。以来私は、最後の最後には神様にすべてを委ねられるようになった。その結果、おかしい方向へ行かずに済んだのである。

だから私は、教育の現場でもこの姿勢が必要であると思っている。ただ理想を目指すだけでなく、あるところからは神様を信じて神様に明け渡す姿勢が。そして最後にその理想を成し遂げてくださるのはイエス様だと思っている。多様な生徒たちがそれぞれの個性に応じてバラバラな方向に向かっていくとき、それを一つに結び付けてくださるのはイエス様であると。

#### (5) 独立学園との懇談会

独立学園から中村先生と生徒3名の会場参加があったので、有志の懇談会を昼の休憩時間に行い、多くの方が参加した。まず中村先生から、独立学園の目指すものや生徒の様子の説明があり、自然と共生し労働すること、便利な現代社会においてあえて不便を課して自ら真理を探究する人間を育てる教育を日々行っているという報告を聞いた。全国集会参加に向けて事前に無教会について勉強会を開催した所、10名程の生徒が参加し、無教会の関心の高さが窺えた。続いて生徒の自己紹介と本集会参加の動機を伺った。

「長期休みに訪問した自由学園の学長先生から、無教会の学校にいるなら内村鑑三について学ぶと良いと言われた」、「主題である"ほんとうの平和"について関心があって、色々な人の話が聞きたかったから」、「聖書を学ぶ中で疑問が湧き、そのヒントを知りたくて参加した」と熱き想いを携えて集会に参加して下さった事が伝わってきた。短時間であったが、お互いに良い交わりが出来た。

(今井館教友会前事務局長・駒込キリスト聖書集会

あらい かつひろ)

## 2024年9月16日第45回「内村鑑三研究会」のご報告

『内村鑑三研究』編集委員 千葉 眞

2024年9月16日（月・敬老の日）14時から17時に、第45回内村鑑三研究会が今井館で開催されました。今回も、多くの参加者が参加できるようにハイブリッド方式を採用いたしました。本年はとくに9月に入っても真夏日が続く天候にもかかわらず、19名が対面で、さらに10名がZoomで参加してくださり、合計29名の参加者となりました。発表者は立教大学大学院でキリスト教学を専攻され、内村鑑三を一貫して研究されてきた戸村潔氏と大阪女学院大学准教授で実践神学と宣教学を専攻されている朴賢淑氏の二名でありました。戸村氏は「キリストの贖罪力について」という題名で発表され、次に朴氏は「内村鑑三の預言者像と咸錫憲のシアル（民）思想」という題で発表されました。

以下は発表者それぞれがまとめてくださった要約です。

### （戸村氏の発表要旨）

内村鑑三の『余は如何にして基督信徒となりし乎』（原著英文）は、「一人の異教徒」がキリスト教に入信して「ヨナタン」となり、回心して「ヨナタン X」（Xは Christian の略語）となる魂の成長と救済を記した「霊的」自叙伝と考えられる。本発表では、作品の第五章から第八章を読み解くことにより、「キリストの贖罪力」（the atoning power of Christ）とは何かを考察した。「自然は空虚を嫌う」という自然の理は、心霊界においては「贖罪の原理」となる。「空虚」は始祖の墮落によって「無きに等しき者」となった「心霊の空虚」を意味し、今を生きるわれわれにも連帯性をもって妥当する。霊魂の救済とは、この「空虚」が「或る物」（something）をもって充たされることである。「或る物」とは「或る者」、キリストの霊、聖霊である。「ヨナタン」の霊が聖霊に充たされ「一つに」なることが「調和」（katallagē = atonement）であり、これをもたらす力、聖化力が「キリストの贖罪力」にほかならない。このとき生起する霊魂の「再（新）創造」が回心であり、そのときが「ヨナタン X」の誕生なのである。この「調和」は、十字架の上に罪を贖い給いしイエスを仰ぎ瞻ることによって与えられる。

### （朴氏の発表要旨）

さて本発表の問いは、両者における思想的な継承と断絶はどこにあるのかについてである。両者の聖書観と預言者的な生き方を生きた点において、咸錫憲は内村を継承していると言える。また、咸錫憲の「預言者」と「民」への思索は、内村の『代表的日本人』における「預言者」と「民・平民」の思索と無関係ではないことを明らかにした。さらに両者における断絶は、第一に、自国像において内村鑑三が自国における歴史の偉人を預言者と見なし自国の天職をその宗教においたのに対し、咸錫憲は世界における自国像を「道端に座っている乞食娘」、または「受難の女王」とし、自国が負っている苦難を積極的に受け入れ、聖書のパラドクスを自国像に展開していった点である。第二に、その実践方向において、咸錫憲自身が実際、実践的に苦しんでいる人と共に生きた点にあると言える。この実践においては、咸錫憲の非暴力的な抵抗運動は、内村に依るよりは、真理のために「民（people）」の連帯をリードしたガンディーの実践に依るところが大きいと見ることができる。



フロアーからの質問を受ける戸村氏（左）と朴氏



閉会后内村鑑三の肖像画の前で司会の千葉氏と  
共に記念写真に納まる朴氏と戸村氏

戸村氏の発表は、魂の「航海日誌」と呼ぶ『余は如何にしてキリスト信徒となりし乎』を取り上げ、そのなかで語られている「心霊の空虚」を手がかりにしながら、内村の贖罪論の諸相が説得的な仕方でも描き出されています。こうして本発表は、内村の言う「キリストの贖罪力」が、「人心内部の分離」の克服、「神の充溢」——つまり、聖霊による「心霊の空虚」の充溢——、「アポリュトローシス」（贖い・救贖）、「カタラゲー」（調和・和解）、回心（再創造、新創造）、「十字架につけられたイエス」の仰瞻など、彼が使用した多種多様な概念の集積として説明されております。

さて朴氏のご発表に関して、フロアーから「シアル」がなぜ「種」でなく、「民」と訳され、咸錫憲におけるキーワードになっているのかについて大事な質問（森山浩二氏）が出されました。その問いについて、今回とくに次のような説明が発表者から寄せられましたので以下に掲載させていただきます。

今回の発表は、咸錫憲のシアル（民）思想のキーワードとなる「預言者」と「民」を中心に、内村鑑三と咸錫憲の思想を読み解くことで、二人における思想的継承と断絶なるものが、この二つのキーワードを通して見出せるのか、が中心テーマであった。まず、咸錫憲の「シアル」思想の「シアル」とは直訳すれば韓国語の「種」を意味するが、転じて「民」と訳されている理由について触れたい。第一に、咸錫憲が1970年から発行した雑誌に『シアレソリ（「シアルの声」の意）』がある。今もその後継者たちにより発行されているが、その英訳は「Voice of People」であることから、シアルは「people」をあらわす「民」と訳されて正しいと言える。第二に、1934年『聖書朝鮮』に掲載された咸錫憲の論文「聖書的立場から見た朝鮮の歴史」には、「民衆」と記された本文が、1965年には「シアル」と書き換えられていることから、咸錫憲において「民衆」とは「シアル」を意味する言葉であったと説明できる。このように民衆について深い思索を行った咸錫憲により韓国の神学界は神学を生み出すことになり、「神学の産みの親」と称されるようになった。

朴氏は、本発表の結論部で、咸錫憲が内村の「聖書観」と「預言者像」を継承しつつも、苦難を強いられているシアル（民）との連帯を第一義的に考えていた点ではガンディーの実践に依拠したと述べていますが、注目すべき論点です。

本研究会はこれら二つの充実したご発表を頂戴することができ、たいへん恵まれました。戸村氏と朴氏には心より深謝いたします。

文責：ちば しん

## 学園・学寮だより

### 愛真高校



AAFの様子

下さっている方々に加え、地元や出雲、松江からも訪問があり賑わいました。マタイ 5:13-14 をテーマ聖句とし、テーマは「光あれ」でした。来校された方々の何人もが「元気をもらいました」と言って帰って行かれたのが印象的でした。AAF後に送信されてきたメールには「命のエネルギーをいただきました」とありました。AAFの活動は、舞台発表、クラス劇、展示、模擬店などと多岐にわたります。準備してきたことが、表情豊かな表現として、また支え合いながら懸命に歩んでいる姿として伝わったのではないかと思います。クラス劇は、各学年の舞台背景はさまざまでしたが、絶望的な状況の中でも道を切り開こうとする人物とそれを応援する人物が描き出されていました。テーマを決める前から準備してきたクラス劇が、不思議にもテーマの「光あれ」と重なり、何か希望のような前向きな力を与えられるものとなったことに、大きな喜びを感じました。

(校長 栗栖 達郎)

### 独立学園



「米部」の稲刈り

独立学園の背後にある、飯豊山系に先日初冠雪がありました。空気が一気に冷たくなる中で、学園は深まりゆく秋を過ごしています。例年に比べて、遅い紅葉を見ながら季節は少しずつ冬へと移りゆきつつあります。今年は本校での米の作柄も良く、好天が続く穏やかな秋を送っています。近隣の叶水小中学校との合同の運動会と文化祭、茸狩り（キノコ狩り）、各学年の登山（クラスキャンプ）を経て、現在クリスマスに向けての動きが始まりました。特にクラスキャンプでは2年生と3年生が飯豊山、朝日岳十1800メートル級の山に登ることができました。10月27日には、本校で中村哲氏の映画「荒野に希望の灯をともし」の上映会が有志の方の尽力で実現し、多くの方々が来校されました。

2002年の卒業記念講演で生徒達が中村氏に直接手紙を書き、講演をしていただくことが実現したこともあり、特別な思いで上映会を実施いたしました。11月8日には収穫感謝祭も行われました。静けさと平和の中で秋を送っている感謝の一方、この間もガザでの死者の記事がない日はほぼ

なく、地球の一方での悲惨を思う時、日々の感謝がとてももどかしいものを感じてしまいます。生徒達もそのことは感じているようです。そのような時代の中でこの時期、特に3年生は進路のことなど含め、生徒は自分の課題を見つめつつ日々を生きております。 (校長 後藤 正寛)

## 愛農学園



学園祭全校合唱ハレルヤ

アレックスの姿がありました。上映後、奈津子さんが若くして直感によってティモールへ行き、アレックスに出会って映画作成を思い立ち、資金も経験もない中ドキュメンタリーに取り組んだことを聞きました。帰国間際にアレックスが奈津子さんに励ましのメッセージを送りました：「たとえ応援してくれる人が少なくても、やろうとしていることがいのちに沿ったことであれば、亡くなった人たちがついてくるから、恐れなくてあなたの仕事を続けてください。目に見えない力が助けてくれるから信じてください。」母なる大地に生まれたティモールの人々に「敵を愛する」姿を見、「天の証人」の応援を見る時、聖書精神を思い起こすのは私だけではないようです。

10月17日朝拝で「宗教改革者、内村鑑三」と題して私は話しました。イエスは宗教改革者であり、ルター同様、内村も宗教改革者でありました。内村はその信仰ゆえに不敬事件によって学校を追い出され、教会から捨てられ、大衆から非国民と石を投げられました。日露戦争の際にはその非戦論ゆえに、新聞社を退き、「聖書之研究」を始めました。内村は世の偽りと欲に対して戦い、無教会と非戦の真理を掲げました。内村は良心に従い真理に生きました。宗教改革は宗教界を含めた世の偽りと欲に対する戦いです。 (校長 村上 守行)

## 登戸学寮

9月下旬の秋雨前線の南下とともに漸く涼しくなりました。天高く馬肥ゆる勉学の秋、四人の欧米留学生を迎え学寮は賑やかです。八人で大山(1252m)に登り秋の丹沢を楽しみました。枳形山中腹にあるこの土地は小町勝美様、定様ご夫妻により学寮に寄贈されました。花爛漫の桜並木やはらはらと散る落ち葉の舞に包まれる豊かな朝を迎えるごとに、お二人への感謝の思いに満たされます。零戦パイロットとして真珠湾から終戦まで二千数百時間の空戦を生き抜いた定氏と勝美さんの祈りの日々は不思議な力に



零戦と戦後のパイロットたち



よるお守りのリアルを伝えます。ボート訓練中に上陸した金沢八景での二人の出会いや墜落時の大火傷そして漂流等その数奇な運命については川崎 暁『ある零戦パイロットの軌跡』（トランスビュー 2003）に詳しいです。戦後定氏はホームレス状態から、「三時間も眠れば足りる」と笑う勝美さんと力を合わせ事業に成功し、新しい時代の平和を日米の若者に期するしかないという思いでこの土地を師黒崎幸吉に託したのです。学寮は「私が初代キリスト教の時代に生まれていたら、ただ使徒パウロのあとについて行って、伝道のお手伝いをしていたでしょう」と語る勝美さんの思いの一つの形です。定氏は 1989 年 11 月勝美さんを今井館聖書講堂で喪主として見送られました。この夏刊行の書でも定氏の生涯が綴られています（写真参照）。戦争と戦争の噂の絶えない 2024 年、この秋の夜長、平和な虫の音を聞きながら、あのガリラヤの聖者の soft power のみをこの学寮で伝え、発信を続けたいと心を新たにしております。「君たち、この世界に同調するな、むしろ神の意志が何であり善とはそして喜ばれるものそして全きことが何であるかを識別するべく、叡知の刷新により変身させられよ」（Rom.12:2）。  
(寮長 千葉 恵)

### 春風学寮



寮長が釣って下さった魚

9 月の半ば、寮生有志を引き連れて西伊豆に釣りに行った。これまで釣りは私の個人的な趣味だったが、今では重要な教育科目であると思うようになった。以下、その理由を記そう。

1. 地球温暖化が深刻化している中、その実態を感覚的に体験することができる。今回も、潮が満ちてくるにつれて海水が温くなるという異常事態を体験できた。
2. 自然環境の喪失、安全志向、スマホの普及などの理由のために、子供たちが自然に触れ合う機会が失われており、それを補うことができる。今回も学生たちは初めて生きた大きな魚に触り、釣り針を抜いたり、血抜きをしたりといった生の体験をすることができた。

3. 見知らぬ人との協力関係を学ぶことができる。釣りに行けば、当然のごとく見知らぬ人たちを手伝い、見知らぬ人たちから手伝ってもらわなければならない。今回も乗船下船のときや大きな魚が釣れたときに見知らぬ人たちと協力することになり、その結果仲良くなることができた。

4. 何より、精神修行になる。釣りの仕掛けを準備して、餌をきちんとつけて、海底に落とすまで、釣り人は無数のことに気を配らなければならない。例えば、竿とリールの状態や餌の保存、風向きや天候、糸としかけの状態…。気を配るべきことは無数にある。また、餌を海底に落としてからは、じっと待たなければならない。一時間余り何も釣れないことがある。さらに魚が餌にかかってからもたいへんだ。リールを速く巻きすぎると糸が切れるし、かといってゆっくり巻いていたら、他の人の仕掛けに魚が絡みついてしまう。

これら以外にも苦労はたくさんあるが、それでも、いやそれだからこそ魚が釣れたときの感動は最高なのだ。今回はアジ、サバ、イナダ、カイワリなどの美味しい魚がたくさん釣れた。その喜びが写真から伝わってくるだろう。  
(寮長 小館 美彦)

## 東京「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日時 2025年3月23日(日)午後2時～  
場所 今井館聖書講堂(〒113-0021 東京都文京区本駒込6-11-15)  
オンライン参加も可能  
講演者 大西 洋司 「晩年の内村鑑三に師事した鈴木弼美の生涯 ― その光と影」  
島藪 進 「内村鑑三の思想と国家神道・天皇崇敬の展開」  
司会 鷺見 誠一  
主催 内村鑑三記念キリスト教講演会運営委員会  
会費 1,000円 (学生 500円)  
問合せ 今井館教友会(小林) Tel・Fax 03-6277-5669  
(宮崎) uchimurakinen-2024@yahoo.co.jp  
『今井館ニュース』本号(第60号)同封のちらしをご参照ください。

## 名古屋「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日時 2025年3月23日(日)午後1時30分～  
場所 名古屋市市政資料館 第3集会室 (TEL: 052-953-0051)  
地下鉄名城線名古屋城駅(2番出口)から東へ歩いて約8分  
講師 木村 ハンネローレ 講演Ⅰ 「内村鑑三との出会いと、日本での歩み」  
講演Ⅱ 「内村鑑三の言葉が持つ、福音の歴史における意義」  
本年は名古屋で半世紀に亘り福音伝道にご尽力されている木村ハンネローレ氏を講師にお迎えします。同氏はドイツで内村鑑三を知り、そのテーマで学位を取得された後、(故)木村尚文氏とともに来日されて、以後教育や出版を通して聖書の信仰を日本に伝えて下さっています。その一方で内村研究を継続され、その著書を通じて彼を欧米に紹介されました。  
司会 浪川 幸彦  
会費 1,000円 (学生 500円)  
主催 名古屋聖書研究会

## 大阪「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日時 2025年3月20日(木・休日)午後2時～  
場所 大阪クリスチャンセンター 2階 多目的ホール  
司会 武田芳彦氏(みかげ聖書集会)  
講師 雑賀光宏氏(みかげ聖書集会)  
月本昭男氏(経堂聖書会)  
会費 1,000円 (学生 500円)  
(終了後短時間質疑応答あり、夕食会なし)

### 各地からの報告

#### ■北陸

##### ○金沢畷田聖書集会

10月20日: 崎村恒夫は、マタイによる福音書24章27～42節から大難難時代について話した。イエスは弟子たちにも分かる様に話されたが、弟子たちは旧約のメッセージを知っていたので、理解できた。難難時代の前には何の印もなく、いつ、起こるかは誰も知らない。その前に

必ず、キリスト者の群れは引き上げられるという携挙がある。神のラッパが鳴ると、主ご自身が天から降って来られるという地上再臨があり、すでに死んでいた人たちが、まず復活し、生き残った者が空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられる。難難時代の記事には教会、キリスト者の群れが出て来ない。難難時代を通過することなく、その前に天に引き上げられている。主の再臨は、いつ起こってもおかしくない。信

## 事務局便り

○ 『今井館ニュース』第59号の土屋真穂さんの巻頭言に対して、思いがけない反響がありました。今井館代表メールアドレスに、韓国の読者の金福礼さんが、韓国無教会雑誌『聖書神愛』に土屋さんの「三世代に受け継がれる無教会信仰」を掲載してよいか、と問合せられました。土屋さんに連絡を取ると、土屋さんはご快諾。それを金さんにお伝えすると金さんはさっそくその巻頭言を韓国語に翻訳され、さらにすぐにそれを掲載した韓国の雑誌を今井館に送ってくださったのでした。海外からのこのようにスピード感にあふれる熱い反応を大変嬉しく思いました。(三上)

○ 今年の4月から9月にかけて放送されたNHKの朝の連続テレビ小説『虎に翼』のなかに、戦後の食糧難の時代に闇での食料調達を潔しとせず、栄養失調で亡くなった判事が登場しました。ドラマではその判事に画家の奥様がおられて・・・、とストーリーが展開してゆきますが、ドラマの中の判事にはモデルがありました。実在するその判事の奥様も、また画家でした。その方は山口矩子さんといって、戦後矢内原先生の聖書集會に出席、会員でつくる『山鳩』という信仰同人誌にも文章を寄稿しておられます。以上はこの夏、サマー募金礼状の中でもご紹介しました。(加納)

○ その後、山口矩子さんが戦後矢内原先生の聖書集會に出席するようになった経緯はこれこれであったとか、山口さんがその後山形の独立学園で美術の特別講師を務められるに至ったいきさつはこれこれであった、などのエピソードが、少しずつ分かってきました。それらから太平洋戦争にいろどられた昭和の前半という時代の姿も、またそのなかにあって信仰を介して人と人とが会って行く様子も浮かびあがってくるようです。まだまだ興味は尽きません。(加納)

### ○ チェンバロお披露目コンサート

久保田彰氏新作のチェンバロを今井館聖書講堂に常設することになりました。そのお披露目演奏会を二日にわたって開催します。

12月28日(土) 13:30 開演 西山まりえ チェンバロ・リサイタル

12月29日(日) 13:30 開演 菅きよみ(フラウト・トラヴェルソ) x 西山まりえ(チェンバロ)  
デュオ・リサイタル

ご予約・お問合せは今井館ホームページでご確認ください。

[http://www.imaikankyoyukai.or.jp/public\\_html/ensokai.html](http://www.imaikankyoyukai.or.jp/public_html/ensokai.html)

## ♪♪コンサートのお知らせ♪♪

今井館聖書講堂でのクリスマスコンサート 12月25日(水) 14時～  
昨年同様チェロの懸田貴嗣さんとお仲間(ピアノとヴァイオリン)に演奏をお願いしています。  
[room@imaikankyoyukai.or.jp](mailto:room@imaikankyoyukai.or.jp)宛てにメールまたは事務局に電話でお申し込みください。お子さんも歓迎です。最後には参加者で讃美歌も歌います。

## 維持会員募集のお知らせ

NPO 法人今井館教友会では会の趣旨にご賛同の方の入会を随時受け付けております。今井館教友会は、維持会員の会費と寄付金によって運営されております。内村鑑三および彼に連なる人々の遺したものを通じ世のために役立つ事を願いつつ鋭意努力を重ねています。昨年今井館は文京区本駒込へ移転し、財政的にはより安定化しますが、皆さまのご支援は不可欠です。安定した経済的・精神的なお支えを願うものです。本、今井館ニュースは会員でない方にもお送りしておりますが、ご覧になって本会の活動にご賛同の方にはぜひ維持会員にお加わり頂きたくお願い申し上げます。また、今井館ニュースはご必要ないようでしたらお手数ですがお知らせください。

### ■会員の特典

1. 今井館資料館の図書・雑誌の貸出サービスをご利用いただけます。
  - (1)宅配便業者との提携による「メール便」利用しています（ただし送料は利用者負担でお願いします）。
  - (2)蔵書の検索につきましては今井館教友会のホームページの「図書検索」をご利用ください。
  - (3)雑誌・図書の一部をコピーしてお送りするサービスにも応じております。
  - (4)詳細は事務局にお問い合わせください。
2. 『今井館ニュース』（年3回発行）の受領。

### ■会費

次の2通りを準備しています。

1. 会員のゆうちょ銀行口座より毎月27日に自動的に振り込んでいただく方法。

|     |        |      |           |
|-----|--------|------|-----------|
| X会員 | 1,500円 | (月額) | (年額1万8千円) |
| Y会員 | 2,000円 | (月額) | (年額2万4千円) |
| Z会員 | 3,000円 | (月額) | (年額3万6千円) |
| T会員 | 任意     | (月額) |           |

※ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない方は口座をお作り頂く必要があります。事務局より必要書類一式をお送りしますので、ご連絡をお願いいたします。
2. ゆうちょ銀行の振込による年1回納入  
A会員 年会費 1万円、B会員 年会費 5千円、S会員 年会費 任意

### ■お申し込み

事務局にご連絡をお願いいたします。申込書（ハガキ）をお送りしますのでご記入の上ご返送ください。

訂正: 59号では、奥付に記載の今井館の郵便番号が間違っていました。〒113-0021です。

「今井館ニュース」第59号 2024年11月30日

(年3回発行 4月、7月、11月)

発行人: 特定非営利活動法人今井館教友会

理事長 加納孝代、副理事長 川中子義勝

編集人: 志知道子、玉井慎一、矢田部千佳子、

山下明

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-11-15

Tel&Fax: 03-6277-5669

メールアドレス 304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp

ホームページ <http://www.imaikankyoyukai.or.jp>

郵便振替口座 00170-2-83102

加入者名 特定非営利活動法人今井館教友会

### 編集後記:

本号では、本駒込今井館の新築・移転に皆さまからいただいたご支援への感謝とご報告を申し上げます。また、坂内義子さんの巻頭言と全国集会のテーマから、平和を考えさせられる内容です。プーチン氏と親しいと言われるトランプ氏がアメリカ大統領に返り咲き、ウクライナもガザも、そして、北朝鮮も、先行きは見えにくくなっています。わが国の政治状況もしばらくは混乱が続きそうですが、全国集会で玄香実さんは、79年もの間、北朝鮮との国交回復の努力をしないできた私たちの怠慢を指摘されました。今井館が主に在る非戦平和の根っことして残存できますよう、お祈りいたします。皆さま、素敵なクリスマスをお過ごしください。(C.Y.)